

令和4年度  
埼玉学園大学大学院  
経営学研究科 **FD** 活動報告書

令和5年6月14日  
経営学研究科  
F D 委員会

## 目 次

|      |                            |    |
|------|----------------------------|----|
| 1    | はじめに                       | 1  |
| 2    | FD活動に関する基本方針               |    |
| 2-1  | FD委員会の委員構成                 | 2  |
| 2-2  | FD委員会の開催日及び議題              | 2  |
| 3    | 経営学研究科教育体制                 |    |
| 3-1  | 教育方針（ポリシー）                 | 3  |
| 3-2  | 研究科長による3ポリシーの検証            | 5  |
| 3-3  | 教育実施体制                     | 6  |
| 4    | 授業アンケート・授業報告書              |    |
| 4-1  | 授業アンケート実施概要                | 16 |
| 4-2  | 教員の授業報告                    | 17 |
| 5    | 研究発表会及び意見交換会               |    |
| 5-1  | 研究発表会                      | 25 |
| 5-2  | 大学院専任教員と客員教員及び大学院生による意見交換会 | 25 |
| 5-3  | 大学院専任教員と客員教員による意見交換会       | 25 |
| 6    | 論文審査について                   |    |
| 6-1  | 修士論文中間報告会                  | 26 |
| 6-2  | 学位論文発表会及び最終試験              | 27 |
| 7    | おわりに                       | 27 |
| 参考資料 |                            |    |
| 1    | 埼玉学園大学大学院FD委員会規程           | 28 |
| 2    | 学生向け授業に関するアンケート実施のお願い（様式）  | 29 |
| 3    | 授業についてのアンケート（様式）           | 30 |
| 4    | 教員の授業報告（様式）                | 31 |
| 5    | 中間報告会の振り返り（様式）             | 32 |

## 1 はじめに

埼玉学園大学の建学の精神である「自立と共生」の精神に基づき、課題に対して自立した解決能力を有し、他者と協働して社会的に共生する人材を育成すべく、大学院経営学研究科が平成22年4月に設置され、これまでの教職員一同の絶大なる努力と協力により、平成24年3月に第1回の修士課程修了生を輩出することができた。その後、本研究科の課程変更を行い、平成25年4月には博士後期課程が開設され、平成28年3月に第1回、平成29年3月に第2回、平成30年3月に第3回、平成31年3月に第4回の博士後期課程修了生を輩出した。今年で、博士前期課程は13年目、博士後期課程は10年目となるが、その間、院生の学習意欲やニーズに応えると同時に院生にとって満足のいく教育・指導を行うことが継続できている。

設置後初年度が終了した段階で、平成22年度埼玉学園大学大学院経営学研究科FD活動報告書を作成した。以後毎年FD委員会を中心に教育、研究の質的向上を目指し報告書を作成してきている。本報告書は、令和4年度における大学院教育が成功裏に行われたかどうかを検証し、もし不十分な点があれば早急に改善を図ることにより、同教育・研究をより充実したものにすべく、点検し、とりまとめ、報告するものである。

## 2 FD活動に関する基本方針

研究科FD委員会の基本方針、大学における研究科FD委員会の地位及びFD委員会規程については、当初の通りで、変更はない。(参考資料1)

令和4年度FD委員会の構成員は、以下の通りである。

### 2-1 FD委員会の委員構成

| 委員等 | 所属・職名       | 氏名    |
|-----|-------------|-------|
| 委員長 | FD委員長       | 一戸 真子 |
| 委員  | 経営学研究科教授    | 吉田 雄司 |
| 委員  | 経営学研究科教授    | 李 相和  |
| 委員  | 経営学研究科教授    | 大塚 浩記 |
| 委員  | 経営学研究科教授    | 佐藤 正勝 |
| 委員  | 経営学研究科教授    | 反田 和成 |
| 委員  | 経営学研究科教授    | 張 英莉  |
| 委員  | 経営学研究科教授    | 文 智彦  |
| 委員  | 経営学研究科非常勤講師 | 船木 恵子 |

### 2-2 FD委員会の開催日及び議題

令和4年度に開催された委員会の日時と議題は以下の通りである。

#### 【令和4年度 FD委員会の開催日及び議題】

| 開催日           | 議題   |
|---------------|--|
| 令和4年<br>7月13日 | (1) 令和4年度研究発表会の実施について<br>(2) 令和4年度教育研究に関する意見交換会の実施について<br>(3) 令和3年度FD活動報告書について |
| 令和4年<br>11月2日 | (1) 令和4年度研究発表会の報告について<br>(2) 令和4年度意見交換会の報告について                                 |
| 令和5年<br>2月8日  | (1) 令和5年度のFD活動について   |

### 3 経営学研究科教育体制

#### 3-1 教育方針（ポリシー）

経営学研究科の教育方針（ポリシー）は以下のとおりである。

##### 【博士前期課程】

##### I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

経営学研究科博士前期課程は、高い倫理観と学術的な研究能力を持ち、現実問題を論理的に分析し、独創的・的確な解答を出せる人材育成を目指し、修士論文の作成を通じて研究能力の育成を重視した研究指導をしています。

修士号を取得する要件は、大学院に2年間以上在学し、履修要件に定める授業科目を履修し、専門科目22単位以上、「研究指導Ⅰ」4単位、「研究指導Ⅱ」4単位の合計30単位以上修得して、修士論文の面接試験の最終試験に合格することが必要です。

修士論文の到達目標は、①当該テーマに関する学会の水準を踏まえていること、②当該分野に関する先行研究論文、資料等の文献を把握していること、③調査研究に関しては、調査の対象の範囲や分析が当該研究分野の水準に達していること、④問題の解決に際して、研究者の独自の論理、知見、発想が見られること、であり指導教員はこの到達目標を達成できるように論文指導を行うことにしています。

##### II. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

経営学研究科博士前期課程のカリキュラムは、経営学、会計学・税法学、金融論、リスク評価論の各学問分野の基本科目、理論科目、実務科目により編成しています。

高い専門性をもって経営・会計・税務・金融・リスク評価の知識を修得し、独創的で人間性豊かな高度専門職業人の育成を目指しています。このため、本研究科における研究指導は次のような特色を持っています。

①研究指導の方針は、研究を重視した質の高い修士論文作成を目指していること、②教育方法は、大学のアカデミズムと先端的な実務との融合により、自ら独創的な解答を得る自立した研究能力の育成、幅広い視野からの研究活動を行うよう指導していること、③自立した研究力を身につけるため2年間にわたり主指導教員1名・副指導教員1名の2名の教員から個別研究指導を継続して受ける体制を整えていること、④2年次の5月と11月に公開の修士論文の中間報告会を義務付け、幅広い参加者からの議論を通じて修士論文のブラッシュアップの機会を設けていること。

##### III. 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

経営学研究科博士前期課程は、グローバル化下での知識基盤型社会に対応する独創性・専門性・人間性を兼ね備えた高度専門職業人を目指す人を求めます。このため、以下の入学試験を行います。

##### ① 一般選抜入学試験（一般学生・社会人・外国人留学生）

専門科目試験（経営学、会計学、金融論、税法から1科目を選択）と口述試験、書類選考で行います。受験生の専門基礎学力、研究能力及び修士論文作成のポテンシャルを評価します。

##### ② 学内選抜入学試験（本学の卒業を迎える学生を対象）

口述試験と書類選考で行います。受験生の専門基礎学力、研究能力及び修士論文作成のポテンシャル、在学中の学修等を評価します。

本研究科は、研究奨励目的に成績優秀な学生に、選考により最大2年間にわたり、返還のない奨学金制度を備えています。

## 【博士後期課程】

### I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

経営学研究科博士後期課程において、博士（経営学）の学位は、原則として3年以上在学し、所定の単位12単位を修得し、かつ必要な研究指導6単位を修得の上、博士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格した者で、豊かな人間性と独創性を兼ね備えた自立した研究者としての研究能力を身につけている者に授与されます。

博士論文の到達目標は、その研究分野の学会の水準に貢献する、オリジナリティを有する学術論文であることです。

### II. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

経営学研究科博士後期課程の教育課程は、アカデミズムと先端的な実務との融合により、自ら独創的な解答を得る自立した研究能力の育成、幅広い視野からの研究活動の実践という本学の教育理念に照らして、経営分野、会計・税務分野、金融分野、リスク評価分野の理論的な科目と実践的な科目をバランスよく設定しています。

教育目標は、博士前期課程の目標に加え、次代の地域企業経営及び我が国が抱えている現実的な経営問題に対応し、新しい企業経営を切り拓く高度な研究能力を持ち、豊かな人間性と独創性を兼ね備えた自立した研究者としての能力を身につけた高度専門職業人の育成です。具体的には、①地域の企業、病院経営等の事業組織の戦略の策定・実行できる高度専門人材、②経営学に関する自立した研究能力を備えた企業経営の海外進出のフロントランナー、③地域企業と共生して、企業の国際化や地場産業の発展のために貢献できる会計・財務・金融・リスク評価・税務のできる高度専門人材、④高度な専門性をもって、先端的な金融問題、リスク評価できる高度金融ビジネスマン、⑤幅広い専門性を修得し官民共同の政策立案に関与できる人材です。

このための教育方法の1つは、教育課程における学問分野の実務と理論を融合し、新しい知を創造する研究能力を身につけるため、3年間にわたり、1院生に対して主指導教員1人（専任教員）と副指導教員1人（客員教員含む）の2人の教員が「博士論文作成のための研究指導」を行います。その2つは、2・3年次の5月に論文中間報告会を行い、広い学問分野からの質疑を受け、博士論文のブラッシュアップの機会を設けています。その3つは、2～3年次に学術学会で報告し、所属の学術学会において自己の論文の学問的水準を認識し、その専門分野の学会水準を超えることを目標に研究指導するとともに、査読付き学会誌に投稿するよう指導します。その4つは、3年次の10月末に博士論文の草稿を出し、公開報告会を行い、指導教員の博士論文の予備審査を受け、予備審査を合格した者が、最終修正した博士論文を提出することになります。

### III. 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

経営学研究科博士後期課程は、自立した研究能力をもってグローバル化下での知識基盤型社会に対応する独創性・専門性・人間性を兼ね備えた高度専門職業人の養成を目標にしています。

入学試験は、原則として既に修士号を取得した社会人・一般学生・留学生を対象に、研究計画書、研究業績（修士論文を含む）及び面接により、博士論文のテーマに関する問題意識の深さ、研究能力及び博士論文作成のポテンシャル等を評価します。

### 3-2 研究科長による3ポリシーの検証

#### 【博士前期課程】

#### I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

令和4年度においては、ディプロマ・ポリシーに明示されている、本学における学生個人の学修成果の達成度の証でもある修士論文に関する到達目標をクリアした3名の修了生が輩出された。近年の傾向としては、本学博士前期課程の特徴でもある税法や会計学に関する税理士試験の科目の一部免除を満たす論文が多くみられ、適切かつ熱心な指導のもと、一定の水準に到達した優れた論文が提出されており、本年も同様の結果となった。また、申請に基づく院生個人が積極的に研究活動を行うことを支援するための埼玉学園大学大学院生研究奨励金も活用され、到達目標である当該テーマに関する学会の水準を踏まえた内容の論文を作成できる能力の育成を果たす一助となっている。今後は博士後期課程につながるよう、連続した研究能力の育成を可視化するため、ディプロマ・サプリメントの作成も試みていきたい。

#### II. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

令和4年度における修士論文作成者は3名であった。カリキュラム・ポリシーに沿って教育課程が適切に展開された。埼玉学園大学大学院学則に基づき、博士前期課程においては、ディプロマ・ポリシーに掲げられているように、専門科目22単位以上、「研究指導Ⅰ」4単位および「研究指導Ⅱ」4単位の合計30単位以上を修得し、かつ修士論文を作成し、最終面接試験に合格することが要件とされているが、3名のいずれもが修士論文作成科目「研究指導Ⅱ」4単位を除く26単位を1年次に修得しており、論文作成に専念できる環境を確保した上で修士論文作成に取り組んだことが確認できた。また、修士論文作成については、埼玉学園大学大学院経営学研究科博士課程の研究指導及び学位に関する細則において詳細に定められており、研究指導方針に基づき、細則に則り、公開の修士論文中間報告会も実施し、幅広い参加者からの指導を多面的に受け、厳格かつ適正に審査が実施され合否の判定がなされた。

また、個々の授業科目については、授業における到達目標に照らし、教員による自己評価が実施されており、授業報告として科目ごとに適切な検証が行われた。

#### III. 入学受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

令和4年度入学者は1名であった。本学経済経営学部からの学内選抜者である。本学の選抜形態は、アドミッション・ポリシーに基づき、一般選抜と学内選抜の2種類があるが、学内選抜に関しては、奨学金制度がある。埼玉学園大学大学院（博士前期課程）奨学金の目的は、特に優秀な成績をもって入学し、在学中勉学に専念する意欲のある学生に対して、経済的に支援することにより、有為な人材を育成することを目的としており、申請資格は、博士前期課程入学試験Ⅰ期受験者で、学部教育課程において、①学内選抜受験者で、3年次末で100単位以上修得し、修得科目のうち「優」の割合が80%以上の者、②一般選抜受験者で、TOEICスコア700点以上の者としている。

学部から大学院へのシームレスな教育の連続性の視点から、学部におけるディプロマ・ポリシーと本研究科のアドミッション・ポリシーとの関係性について検証してみたい。経済経営学部のディプロマ・ポリシーにおける学位授与「学士（経営経営学）」の要件は、①リベラルアーツの修得、②論理的思考力の修得、③専門知識の修得、④実践力の修得の4点である。このうち、特に③の専門知識の修得については、具体的にどのようなコンピテンシーが修得できているかについての更なる検証を行い、かつグローバル化の進展による大学院レベルでの教育に求められる資質についての検証も同時に行いながら、博士前期課程修了時におけるコンピテンシーを作成し、一般の入試希望者にも明示できるよう次年度以降検討を進める。

## 【博士後期課程】

### I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学の博士後期課程において授与可能な学位は博士（経営学）であるが、博士論文の到達目標として、当該研究分野の学会の水準に貢献する、オリジナリティを有する学術論文であることと同時に、博士の学位取得に相応しい人物像として、豊かな人間性と独創性を兼ね備えた自立した研究者としての研究能力を身につけているものに授与されることがディプロマ・ポリシーに示されている。まさに、博士号の取得は、大学の基本理念である「自立と共生の意識を持った人材の養成」の集大成とも言える。経営系大学院を取り巻く現状としては、グローバル化の加速により、産業界においては、各国における競争も激化しており、産業界を牽引できる高度経営人材を育成・確保する必要性が高まりつつある中で、本学の学位取得者が活躍することができるよう質的保証を担保していきたい。

### II. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本研究科博士課程においては、経営分野、会計・税務分野、金融分野、リスク評価分野のそれぞれにおいて、理論的な科目と実践的な科目がバランスよく設定されており、次代の地域企業経営及び我が国が抱えている現実的な経営問題に対応し、新しい企業経営を切り拓く高度な研究能力を持ち、豊かな人間性と独創性を兼ね備えた自立した研究者としての能力を身につけた高度専門職業人の育成である教育目標を達成できるようカリキュラムが設定されている。令和4年度においては、博士後期課程においては1名のみであり、すでに2年次のため、前年度に必要な科目を履修、単位修得済みであり、特別研究指導Ⅱのみの受講であった。

博士論文指導等については、細則において詳細に定められており、課程博士については、博士論文中間報告会での発表が要件とされており、5月26日に第1回博士論文中間報告会が実施された。発表時間30分、質疑応答が30分の構成で実施され、今後の博士論文作成に向けた各専門分野の教員からの指導と助言を得る機会となった。

### III. 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学入学受け入れの対象は、原則として、既に修士号を取得した社会人・一般学生・留学生を対象に、アドミッション・ポリシーに基づき、グローバル化下での知識基盤型社会に対応可能な高度専門職業人の養成を受け入れることとしている。残念ながら本年度においては該当者がいなかったが、3つのポリシーに基づく人材養成に相応しい優れた研究指導が可能な教授陣が揃っていることについて、更なる周知を図っていきたい。



### 3-3 教育実施体制

令和4年度は、専任教員及び客員教員を併せて、26名の教員で授業・研究指導を行った。それぞれの詳細は、次の通りである。

#### 3-3-1 専任教員

| No. | 氏名    | 職位   | 学位            |
|-----|-------|------|---------------|
| 1   | 吉田 雄司 | 研究科長 | 博士 (サステナビリティ) |
| 2   | 花崎 正晴 | 教授   | 博士 (経済学)      |
| 3   | 李 相和  | 教授   | 博士 (経済学)      |
| 4   | 一戸 真子 | 教授   | 博士 (保健学)      |
| 5   | 伊藤 孝  | 教授   | 博士 (経済学)      |
| 6   | 薄井 和夫 | 教授   | 博士 (商学)       |
| 7   | 大塚 浩記 | 教授   | 修士 (経営学)      |
| 8   | 佐藤 正勝 | 教授   | 経済学士          |
| 9   | 反田 和成 | 教授   | 会計修士 (専門職)    |
| 10  | 張 英莉  | 教授   | 博士 (経済学)      |
| 11  | 福永 肇  | 教授   | 修士 (経済学)      |
| 12  | 文 智彦  | 教授   | 博士 (経営学)      |
| 13  | 大江 清一 | 准教授  | 博士 (経済学)      |

合計 13 名

#### 3-3-2 客員教員

| No. | 氏名    | 職位    | 学位       |
|-----|-------|-------|----------|
| 1   | 禹 宗杭  | 客員教授  |          |
| 2   | 小川 廣明 | 客員教授  |          |
| 3   | 川原由紀人 | 客員教授  |          |
| 4   | 高橋 均  | 客員教授  | 博士 (経営法) |
| 5   | 椿 隆   | 客員教授  |          |
| 6   | 富家 友道 | 客員教授  |          |
| 7   | 星 恵美子 | 客員教授  |          |
| 8   | 本澤 実  | 客員教授  |          |
| 9   | 本橋 正美 | 非常勤講師 |          |
| 10  | 船木 恵子 | 非常勤講師 |          |
| 11  | 山本 貴啓 | 客員教授  |          |
| 12  | 香取 稔  | 客員教授  |          |
| 13  | 鯖田 豊則 | 客員教授  |          |

合計 13 名

### 3-3-3 担当授業科目・研究指導

各教員の担当授業は、以下の通りである。

埼玉学園大学大学院 経営学研究科経営学専攻博士前期課程 授業科目及び担当教員

| 科目区分        | 科目名                | 担当教員   |
|-------------|--------------------|--|
| 経営分野        | 経営学特論              | 大江 清一  |
|             | 経営組織論特論            | 文 智彦   |
|             | 医療経済特論             | 一戸 真子  |
|             | ヘルスケアサービス・マネジメント特論 | 一戸 真子  |
|             | 労務管理特論             | 禹 宗杭   |
|             | 地域企業論特論            | 反田 和成  |
|             | 国際経営特論             | 伊藤 孝   |
|             | マーケティング特論          | 薄井 和夫  |
|             | 経営史特論              | 張 英莉   |
|             | アジア経済事情特論          | 張 英莉   |
|             | 会社法特論              | 高橋 均   |
| 会計・<br>税務分野 | 財務会計特論             | 李 相和   |
|             | 管理会計特論             | 本橋 正美  |
|             | 国際会計特論             | 李 相和   |
|             | 会計監査特論             | 山本 貴啓  |
|             | 簿記特論               | 大塚 浩記  |
|             | 経営財務特論             | 福永 肇   |
|             | IRと企業情報特論          | -  |
|             | 租税法特論              | 佐藤 正勝  |
|             | 法人税法特論             | 川原由紀人  |
|             | 所得税法特論             | 星 恵美子  |
|             | 相続税法特論             | 香取 稔   |
|             | 消費税法特論             | 椿 隆  |
|             | 国際租税法特論            | 小川 廣明  |
|             | 環境会計特論             | 吉田 雄司  |
| 金融分野        | 金融論特論              | 花崎 正晴  |
|             | 国際金融論特論            | 本澤 実   |
|             | 貨幣論特論              | 船木 恵子  |
|             | 証券市場特論             | 鯖田 豊則  |
| リスク<br>評価分野 | リスク・マネジメント特論       | 富家 友道  |
|             | 格付評価特論             | -  |
| 研究指導        | 研究指導Ⅰ・Ⅱ            | 吉田 雄司/花崎 正晴/李 相和/<br>一戸 真子/伊藤 孝/薄井 和夫/<br>張 英莉/文 智彦/佐藤 正勝/<br>反田 和成/福永 肇 |

|         | 科目名                | 担当教員   |
|---------|--------------------|--|
| 経営分野    | 経営学特講              | 大江 清一  |
|         | 経営組織論特講            | 文 智彦   |
|         | ヘルスケアサービス・マネジメント特講 | 一戸 真子  |
|         | 地域企業論特講            | 反田 和成  |
|         | 国際経営特講             | 伊藤 孝   |
|         | 経営史特講              | 張 英莉   |
|         | マーケティング論特講         | 薄井 和夫  |
|         | 労務管理特講             | 禹 宗杭   |
| 会計分野    | 財務会計特講             | 李 相和   |
|         | 管理会計特講             | 本橋 正美  |
|         | 国際会計特講             | 李 相和   |
|         | 経営財務特講             | 福永 肇   |
|         | 租税法特講              | 佐藤 正勝  |
| 金融分野    | 貨幣論特講              | 舩木 恵子  |
|         | 金融論特講              | 花崎 正晴  |
|         | 国際金融論特講            | 本澤 実   |
|         | 現代ファイナンス特講         | -  |
| リスク評価分野 | リスク・マネジメント特講       | 富家 友道  |
| 研究指導    | 特別研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ        | 李 相和/花崎 正晴/一戸 真子/<br>伊藤 孝/薄井 和夫/張 英莉/<br>文 智彦/佐藤 正勝/反田 和成/<br>福永 肇 |

### 3-3-4 カリキュラム

昨年度と同様、高度な専門性、独創性及び豊かな人間性を有すると同時に、高い経営能力と国際感覚を身に付け、地域企業に指導的な役割を果たしうる人材の養成を図るべく、以下のカリキュラム等で、教育・研究を行った。

#### 【教育課程の概要 経営学研究科 博士前期課程】

| 学位又は称号   | 修士（経営学） | 学位又は研究科の分野 | 経済学関係 |
|--|---------|------------|-------|
| 卒業要件及び履修方法   |         | 授業時間等      |       |
| 必修科目8単位を含め、30単位以上を修得し、かつ、修士論文あるいは課題レポートを提出し、その審査及び最終試験に合格すること。 |         | 1学年の学期区分   | 2学期   |
|  |         | 1学期の授業期間   | 15週   |
|  |         | 1時限の授業時間   | 90分   |

| 科目区分    | 授業科目の名称            | 配当年次  | 単位数 |    |    | 授業形態 |    |      |
|---------|--------------------|-------|-----|----|----|------|----|------|
|         |                    |       | 必修  | 選択 | 自由 | 講義   | 演習 | 実験実習 |
| 経営分野    | 経営学特論              | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 経営組織論特論            | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 医療経済特論             | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | ヘルスケアサービス・マネジメント特論 | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 労務管理特論             | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 地域企業論特論            | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 国際経営特論             | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | マーケティング特論          | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 経営史特論              | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | アジア経済事情特論          | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 会社法特論              | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
| 会計・税務分野 | 財務会計特論             | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 管理会計特論             | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 国際会計特論             | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 会計監査特論             | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 簿記特論               | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 経営財務特論             | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | I Rと企業情報特論         | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 租税法特論              | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 法人税法特論             | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 所得税法特論             | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 相続税法特論             | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 消費税法特論             | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 国際租税法特論            | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
| 環境会計特論  | 1・2                |       | 2   |    | ○  |      |    |      |
| 金融分野    | 金融論特論              | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 国際金融論特論            | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 貨幣論特論              | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 証券市場特論             | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
| リスク評価分野 | リスク・マネジメント特論       | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 格付評価特論             | 1・2   |     | 2  |    | ○    |    |      |
| 研究指導    | 研究指導Ⅰ              | 1(通年) | 4   |    |    |      | ○  |      |
|         | 研究指導Ⅱ              | 2(通年) | 4   |    |    |      | ○  |      |

【教育課程の概要 経営学研究科 博士後期課程】

|   |         |            |       |
|---|---------|------------|-------|
| 学位又は称号  | 博士（経営学） | 学位又は研究科の分野 | 経済学関係 |
| 卒業要件及び履修方法  |         | 授業時間等      |       |
| 必修科目 6 単位を含め、12 単位以上を修得し、かつ、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。 |         | 1 学年の学期区分  | 2 学期  |
|   |         | 1 学期の授業期間  | 15 週  |
|   |         | 1 時限の授業時間  | 90 分  |

| 科目区分    | 授業科目の名称            | 配当年次  | 単位数 |    |    | 授業形態 |    |      |
|---------|--------------------|-------|-----|----|----|------|----|------|
|         |                    |       | 必修  | 選択 | 自由 | 講義   | 演習 | 実験実習 |
| 経営分野    | 経営学特講              | 1・2・3 |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 経営組織論特講            | 1・2・3 |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | ヘルスケアサービス・マネジメント特講 | 1・2・3 |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 地域企業論特講            | 1・2・3 |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 国際経営特講             | 2・3   |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 経営史特講              | 1・2・3 |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | マーケティング論特講         | 1・2・3 |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 労務管理特講             | 1・2・3 |     | 2  |    | ○    |    |      |
| 会計・税務分野 | 財務会計特講             | 1・2・3 |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 管理会計特講             | 1・2・3 |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 国際会計特講             | 1・2・3 |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 経営財務特講             | 1・2・3 |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | I R と企業情報特講        | 1・2・3 |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 租税法特講              | 1・2・3 |     | 2  |    | ○    |    |      |
| 金融分野    | 貨幣論特講              | 1・2・3 |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 金融論特講              | 1・2・3 |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 国際金融論特講            | 1・2・3 |     | 2  |    | ○    |    |      |
|         | 現代ファイナンス特講         | 1・2・3 |     | 2  |    | ○    |    |      |
| リスク評価分野 | リスク・マネジメント特講       | 1・2・3 |     | 2  |    | ○    |    |      |
| 研究指導    | 特別研究指導Ⅰ            | 1(通年) | 2   |    |    |      | ○  |      |
|         | 特別研究指導Ⅱ            | 2(通年) | 2   |    |    |      | ○  |      |
|         | 特別研究指導Ⅲ            | 3(通年) | 2   |    |    |      | ○  |      |

3-3-5 時間割表

令和4年度 埼玉学園大学大学院 経営学研究科時間割表

【春期】

| 時限                        | 課程   | 月     |       |     | 火      |       |     | 水       |       |     | 木     |       |     | 金      |      |     |
|---------------------------|------|-------|-------|-----|--------|-------|-----|---------|-------|-----|-------|-------|-----|--------|------|-----|
|                           |      | 科目名   | 担当者   | 教室  | 科目名    | 担当者   | 教室  | 科目名     | 担当者   | 教室  | 科目名   | 担当者   | 教室  | 科目名    | 担当者  | 教室  |
| 1限<br>9:00<br>～<br>10:30  | 博士前期 |       |       |     |        |       |     |         |       |     |       |       |     |        |      |     |
|                           | 博士後期 |       |       |     |        |       |     |         |       |     |       |       |     |        |      |     |
| 2限<br>10:40<br>～<br>12:10 | 博士前期 |       |       |     |        |       |     |         |       |     |       |       |     |        |      |     |
|                           | 博士後期 |       |       |     |        |       |     | 特別研究指導Ⅱ | 一戸 真子 | 研究室 |       |       |     |        |      |     |
| 3限<br>13:00<br>～<br>14:30 | 博士前期 |       |       |     |        |       |     |         |       |     |       |       |     | 経営史特論  | 張 英莉 | 309 |
|                           | 博士後期 |       |       |     |        |       |     |         |       |     |       |       |     |        |      |     |
| 4限<br>14:40<br>～<br>16:10 | 博士前期 |       |       |     |        |       |     |         |       |     | 研究指導Ⅰ | 吉田 雄司 | 研究室 | 財務会計特論 | 李 相和 | 研究室 |
|                           | 博士後期 |       |       |     |        |       |     |         |       |     |       |       |     |        |      |     |
| 5限<br>16:20<br>～<br>17:50 | 博士前期 |       |       |     | 医療経済特論 | 一戸 真子 | 309 |         |       |     | 研究指導Ⅱ | 吉田 雄司 | 研究室 |        |      |     |
|                           | 博士後期 |       |       |     |        |       |     |         |       |     |       |       |     |        |      |     |
| 6限<br>18:10<br>～<br>19:40 | 博士前期 | 会社法特論 | 高橋 均  | 309 |        |       |     | 所得税法特論  | 星 恵美子 | 309 |       |       |     |        |      |     |
|                           | 博士後期 | 研究指導Ⅱ | 佐藤 正勝 | 310 |        |       |     | 研究指導Ⅱ   | 李 相和  | 研究室 |       |       |     |        |      |     |
| 7限<br>19:45<br>～<br>21:15 | 博士前期 |       |       |     |        |       |     |         |       |     |       |       |     |        |      |     |
|                           | 博士後期 |       |       |     |        |       |     |         |       |     |       |       |     |        |      |     |

1) 「研究指導Ⅰ・Ⅱ」は、主指導教員、副主指導教員と院生との協議により、時間を決めて行うこととする。  
2) 「特別研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、主指導教員、副主指導教員と院生との協議により、時間を決めて行うこととする。

【秋期】

| 時限                        | 課程   | 月                  |       |     | 火       |       |     | 水       |      |     | 木          |       |     | 金         |       |     |
|---------------------------|------|--------------------|-------|-----|---------|-------|-----|---------|------|-----|------------|-------|-----|-----------|-------|-----|
|                           |      | 科目名                | 担当者   | 教室  | 科目名     | 担当者   | 教室  | 科目名     | 担当者  | 教室  | 科目名        | 担当者   | 教室  | 科目名       | 担当者   | 教室  |
| 1限<br>9:00<br>～<br>10:30  | 博士前期 |                    |       |     |         |       |     |         |      |     |            |       |     |           |       |     |
|                           | 博士後期 |                    |       |     |         |       |     |         |      |     |            |       |     |           |       |     |
| 2限<br>10:40<br>～<br>12:10 | 博士前期 |                    |       |     |         |       |     |         |      |     |            |       |     |           |       |     |
|                           | 博士後期 | 地域企業論特講            | 反田 和成 | 309 |         |       |     | 労務管理特講  | 禹 宗祐 | 406 | マーケティング論特講 | 薄井 和夫 | 309 | 財務会計特講    | 李 相和  | 309 |
| 3限<br>13:00<br>～<br>14:30 | 博士前期 | ヘルスケアサービス・マネジメント特論 | 一戸 真子 | 309 | 管理会計特論  | 本橋 正美 | 308 |         |      |     |            |       |     | アジア経済事情特論 | 張 英莉  | 309 |
|                           | 博士後期 |                    |       |     | 金融論特講   | 花崎 正晴 | 310 |         |      |     |            |       |     | 国際経営特講    | 伊藤 孝  | 310 |
| 4限<br>14:40<br>～<br>16:10 | 博士前期 |                    |       |     | 会計監査特論  | 山本 貴啓 | 308 |         |      |     | 環境会計特論     | 吉田 雄司 | 407 | 国際会計特論    | 李 相和  | 研究室 |
|                           | 博士後期 |                    |       |     | 管理会計特講  | 本橋 正美 | 310 |         |      |     |            |       |     | 租税法特講     | 佐藤 正勝 | 310 |
| 5限<br>16:20<br>～<br>17:50 | 博士前期 |                    |       |     |         |       |     |         |      |     |            |       |     | 貨幣論特論     | 松木 恵子 | 310 |
|                           | 博士後期 |                    |       |     | 経営財務特講  | 福永 肇  | 309 |         |      |     | 貨幣論特講      | 松木 恵子 | 407 |           |       |     |
| 6限<br>18:10<br>～<br>19:40 | 博士前期 |                    |       |     |         |       |     | 国際金融論特論 | 本澤 実 | 309 |            |       |     | 経営組織論特論   | 文 智彦  | 310 |
|                           | 博士後期 |                    |       |     | 経営学特講   | 大江 清一 | 310 |         |      |     |            |       |     |           |       |     |
| 7限<br>19:45<br>～<br>21:15 | 博士前期 | 法人税法特論             | 川原由紀人 | 309 | 国際租税法特論 | 小川 廣明 | 310 | 労務管理特論  | 禹 宗祐 | 309 |            |       |     |           |       |     |
|                           | 博士後期 |                    |       |     |         |       |     | 国際金融論特講 | 本澤 実 | 310 |            |       |     |           |       |     |

1) 「研究指導Ⅰ・Ⅱ」は、主指導教員、副主指導教員と院生との協議により、時間を決めて行うこととする。  
2) 「特別研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、主指導教員、副主指導教員と院生との協議により、時間を決めて行うこととする。

集中講義

| 課程   | 科目名    | 担当者 | 教室  | 日   | 程 |
|------|--------|-----|-----|---|---|
| 博士前期 | 消費税法特論 | 椿 陸 | 309 | 10/20・27、11/10・17・24、12/1・8の5・6時限目、12/15の5時限目 |   |

### 3-3-6 院生数

今年度（令和4年5月1日現在）本学大学院に在籍する院生の詳細は、以下の通りである。

#### 総数、入試形態別人数、年齢別人数、男女別人数

① 総数 8名

② 入試形態別人数（名）

|          | 一般選抜 | 学内選抜 |
|----------|------|------|
| 博士前期課程1年 | -    | 1    |
| 博士前期課程2年 | 1    | 2    |
| 博士後期課程1年 | -    | -    |
| 博士後期課程2年 | -    | 1    |
| 博士後期課程3年 | -    | -    |
| 合計       | 1    | 4    |

③ 年齢別人数（名）

|          | 22～25(歳) | 26～30(歳) | 31～35(歳) | 36～40(歳) | 41～ (歳) |
|----------|----------|----------|----------|----------|---------|
| 博士前期課程1年 | 1        | -        | -        | -        | -       |
| 博士前期課程2年 | 2        | 1        | -        | -        | -       |
| 博士後期課程1年 | -        | -        | -        | -        | -       |
| 博士後期課程2年 | 1        | -        | -        | -        | -       |
| 博士後期課程3年 | -        | -        | -        | -        | -       |
| 合計       | 4        | 1        | -        | -        | -       |

④ 男女別人数（名）

|          | 男 | 女 |
|----------|---|---|
| 博士前期課程1年 | - | 1 |
| 博士前期課程2年 | 2 | 1 |
| 博士後期課程1年 | - | - |
| 博士後期課程2年 | - | 1 |
| 博士後期課程3年 | - | - |
| 合計       | 2 | 3 |

### 3-3-7 研究題目一覧

#### <博士前期課程1年>

- ・ 自然資本の会計情報としての開示に関する研究
- ・ 給与所得の意義 ー空間的・時間的高速とは何かー
- ・ 資産除去債務の会計処理に関する研究

#### <博士前期課程2年>

- ・ 戦略的イノベーションに関する理論研究  
ーアンドロイドスマホとアイフォンスマホのイノベーション比較ー
- ・ リース会計基準における一考察  
ー中小企業における少額リース資産の取扱いを中心としてー
- ・ のれんの資産性と償却についての研究
- ・ 有価証券報告書における環境情報開示に関する研究  
ー鉄鋼産業のケースー

#### <博士後期課程1年>

- ・ 国際的視野から見た高齢者認知症の予防に寄与する新ケアビジネスモデル構築に関する研究

### 3-3-8 履修状況

履修状況及び定期試験実施方法は、次の通りである。

#### 博士前期課程 授業科目別人数

##### 【春期】

| 科目名    | 担当教員  | 受講者数 |
|--------|-------|------|
| 医療経済特論 | 一戸 真子 | 1    |
| 経営史特論  | 張 英莉  | 1    |
| 会社法特論  | 高橋 均  | 1    |
| 財務会計特論 | 李 相和  | 1    |
| 所得税法特論 | 星 恵美子 | 1    |

##### 【秋期】

| 科目名                | 担当者   | 受講者数 |
|--------------------|-------|------|
| ヘルスケアサービス・マネジメント特論 | 一戸 真子 | 1    |
| アジア経済事情特論          | 張 英莉  | 1    |
| 国際会計特論             | 李 相和  | 1    |
| 会計監査特論             | 山本 貴啓 | 1    |
| 環境会計特論             | 吉田 雄司 | 1    |

##### 【通年】

| 科目名     | 担当者   | 受講者数 |
|---------|-------|------|
| 研究指導 I  | 吉田 雄司 | 1    |
| 研究指導 II | 吉田 雄司 | 1    |
|         | 李 相和  | 1    |
|         | 佐藤 正勝 | 1    |



### 博士後期課程 授業科目別人数

#### 【春期】

実施対象科目無し

#### 【秋期】

実施対象科目無し

#### 【通年】

| 科目名     | 担当者   | 受講者数 |
|---------|-------|------|
| 特別研究指導Ⅱ | 一戸 真子 | 1    |

### 3-3-9 定期試験

#### 博士前期課程

##### 【春期】

##### 【レポート】

| No. | 科目名    | 担当    |
|-----|--------|-------|
| 1   | 医療経済特論 | 一戸 真子 |
| 2   | 経営史特論  | 張 英莉  |
| 3   | 会社法特論  | 高橋 均  |
| 4   | 財務会計特論 | 李 相和  |
| 5   | 経営財務特論 | 福永 肇  |

#### 博士後期課程

##### 【春期】

実施対象科目無し

#### 博士前期課程

##### 【秋期】

##### 【レポート】

| No. | 科目名                | 担当    |
|-----|--------------------|-------|
| 1   | ヘルスケアサービス・マネジメント特論 | 一戸 真子 |
| 2   | アジア経済事情特論          | 張 英莉  |
| 3   | 国際会計特論             | 李 相和  |
| 4   | 会計監査特論             | 山本 貴啓 |
| 5   | 環境会計特論             | 吉田 雄司 |

#### 博士後期課程

##### 【秋期】

実施対象科目無し

## **4 授業アンケート・授業報告**

### **4-1 授業アンケート実施概要**

受講学生が1名のため実施対象科目無し

### **4-2 教員による授業報告**

本研究科では、大学院教育の改善・充実を図るべく、個別の授業担当教員はもとより、大学院で授業を担当する教員全体で、改善点等をそれぞれが認識し、以後改善を図ることができるよう、授業担当教員による授業報告の提出を全担当教員に求めている。

例年、教員による授業報告については、受講学生のアンケート結果を踏まえ、自己点検を行っているが、今年度は該当者が1名であったため、実施方法に基づき実施できなかった。よって、各授業科目ごとの到達目標に基づき点検がなされた。

## 教員の授業報告

経営学研究所  
職名 教授  
氏名 吉田 雄司

| 科目名     | 開講<br>時期 | 履修<br>者数 | 学生の授業アンケート内容<br>(実施科目のみ記載)  | 教員の自己評価<br>(当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)  |
|---------|----------|----------|---|---|
| 研究指導Ⅰ・Ⅱ | 秋期       | 1        | <p>※授業アンケート未実施科目の為、授業到達目標を記載</p> <p>研究指導Ⅰ：先行研究からリサーチ・クエッションと中心命題の仮説設定をすること。</p> <p>研究指導Ⅱ：修士論文を完成させ、博士論文への礎を固めること。</p> | <p>研究指導Ⅰ：院生には環境会計に関する先行研究論文を毎回提示し、その要旨を提出させた。特に環境会計に関する査読論文を約20本は読んだ。これらの論文は先行研究につながるもので、修士論文に引用可能と思われる。</p> <p>研究指導Ⅱ：修士論文の作成を目標に指導をした。中間報告会では各教員からの助言は有益であった。修士論文は、先行研究からの問題提起とその中心命題を導出することができた。博士課程へ進学しなかったのが残念であった。</p> |
| 環境会計特論  | 秋期       | 1        | <p>※授業アンケート未実施科目の為、授業到達目標を記載</p> <p>企業の公表する「環境報告書」や「CSR 報告書」、「統合報告書」などが読めるようになること。</p>                                | <p>修士論文の研究対象が電力会社であるため各社の「環境報告書」や「統合報告書」についてHP 閲覧してもらった。また、修士論文に関係する先行研究として環境会計や自然資本会計に関する論文を読んでもらった。論文作成には役立ったと思う。</p>   |

## 教員の授業報告

経営学研究科  
職名 教授  
氏名 李 相和

| 科目名    | 開講<br>時期 | 履修<br>者数 | 学生の授業アンケート内容<br>(実施科目のみ記載)   | 教員の自己評価<br>(当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)   |
|--------|----------|----------|--|--|
| 財務会計特論 | 春期       | 1        | <p>※授業アンケート未実施科目の為、授業到達目標を記載</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 修士論文作成に必要な会計理論の習得</li> <li>・ 国際会計問題についての分析力の向上</li> <li>・ グローバル化に伴う国際会計制度の理解</li> </ul>  | <p>この授業では、グローバル化時代の財務会計の基礎理論とその応用について、会計基準の設定背景、その基礎をなす会計諸概念の体系に関する知識を習得させた。また、会計基準の国際的統合化の中で新たに制度化された会計処理への適用を取り上げ、最新の知識と技法の習得を行った。さらに、職業会計人志望者のために、簿記検定試験や税理士・公認会計士試験の出題傾向等について適宜情報提供した。</p>   |
| 国際会計特論 | 秋期       | 1        | <p>※授業アンケート未実施科目の為、授業到達目標を記載</p> <p>受講生が、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①修士論文作成に必要な会計理論を習得すること、</li> <li>②国際会計問題についての分析力を向上すること、</li> <li>③グローバル化に伴う国際会計制度を理解することを到達目標とした。</li> </ol>       | <p>この授業は、会計基準のコンバージェンスの観点から、国際会計基準（IAS）及び国際財務報告基準（IFRS）の歴史的背景とその内容を体系的に理解し、国際会計に関する基礎をなす会計諸概念の知識を習得させた。</p> <p>具体的には、会計基準の統合化を目指す国際的動向とその問題点、国際会計基準（IAS）及び国際財務報告基準（IFRS）の考え方やその特徴、個別の国際会計基準の解説、今後の国際会計基準と各国の対応のあり方などを習得させた。</p> <p>特に、授業の内容や方向性は修士論文の作成に役立つように気を配った。</p> |
| 研究指導Ⅱ  | 通年       | 1        | <p>※授業アンケート未実施科目の為、授業到達目標を記載</p> <p>博士前期課程の院生に、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①グローバル化に伴う国際会計理論及び制度を理解すること、</li> <li>②論文作成に必要な会計理論の習得と修士論文のテーマの設定や先行研究の検索を行い、修士論文の完成することを到達目標とした。</li> </ol> | <p>研究指導Ⅱでは、修士論文の作成に向けた研究指導を行い、修士論文を完成させ、修士号を取得することができた。具体的には、研究テーマの確定、研究の基礎となる基本的なテキストの理解、先行文献の収集、研究論文の構成や作成の準備作業、研究成果の発表と討論などを通じて修士論文の作成である。</p>  |

## 教員の授業報告

経営学研究科  
職名 教授  
氏名 一戸 真子

| 科目名                | 開講時期 | 履修者数 | 学生の授業アンケート内容<br>(実施科目のみ記載)   | 教員の自己評価<br>(当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)   |
|--------------------|------|------|--|--|
| 医療経済特論             | 春期   | 1    | ※授業アンケート未実施科目の為、授業到達目標を記載<br>①医療サービスの特殊性と経済の関係について説明できる。<br>②医療技術評価の世界的潮流について理解できる。<br>③診療報酬のあり方を含め、医療サービスとコストとの関係を理解できる。<br>④アウトカムと経済性について理解を深める。伴う国際会計制度の理解          | 履修者は1名であったので、あまり不可をかけないよう心がけた。またできる限り自己の意見を積極的に発言できる機会となるよう、ディスカッションを多く取り入れた。学部時代にヘルスケアサービス・マネジメント科目を受講しており、医療の領域には関心があったとのことで、あらかじめ基礎的知識がある程度あり、授業の展開がしやすかった。また受講態度も大変真面目で、積極的にディスカッションもできたので、やや発展的にグローバルな視点から医療経済の諸課題についての講義を一步踏み込んで実施できた。       |
| ヘルスケアサービス・マネジメント特論 | 秋期   | 1    | ※授業アンケート未実施科目の為、授業到達目標を記載<br>①ヘルスケアサービスの特徴と質について説明できる。<br>②医療・介護経営における重要な各要素について説明できる。<br>③ベスト・プラクティスのために求められる視点について分析できる。<br>健康・保健・医療・介護・福祉分野におけるマネジメントのあり方について考察できる。 | 受講者は1名と少数であったが、大変熱心に取り組んでくれた。理解度もよく、順調に講義を進めることができた。健康・保健・医療については、身近でもあり、講義内容に対する反応もよく、ディスカッションも行ったが、理解を深めることができたと思われる。一方、介護や福祉に関しては、身近な家族等にサービス利用者がいないこともあり、現状がどのようになっているか、どのような施設やサービス内容かについての説明が大変難しく、より丁寧に解説が必要となった点については、今後もより一層の工夫が必要かと思われる。 |

## 教員の授業報告

経営学研究科  
職名 教授  
氏名 佐藤 正勝

| 科目名   | 開講<br>時期 | 履修<br>者数 | 学生の授業アンケート内容<br>(実施科目のみ記載)   | 教員の自己評価<br>(当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)  |
|-------|----------|----------|--|---|
| 研究指導Ⅱ | 通年       | 1        | <p>※授業アンケート未実施科目の為、授業到達目標を記載</p> <p>研究指導Ⅰの1年間で、ほぼ、粗々の論文が全体として出来上がることを目標とする。研究指導Ⅱでは、論理の崩れの再チェック（木に竹を接いだようになっていないか）等の実施、各章の補強作業（追加的資料収集を含む）を積極的に進め、最後の3か月はテニヲハのみの修正だけで終われる余裕のある進捗の確保をすること。</p> | <p>論文の進め方、特に、2年次は、論文の完成をしなければならない重要な時期であるため、配付済みテキストに、書き方についての具体的な例を記載しておくことにより、履修生が、常に、先生にそのつどの質問をすることなく、進めることができるように配慮することにしてきている。その指導の結果は、履修生が最終試験に合格しており、その結果から見る限り、十分な指導ができたものと、考えている。</p> |

## 教員の授業報告

経営学研究科  
職名 教授  
氏名 張 英莉

| 科目名       | 開講時期 | 履修者数 | 学生の授業アンケート内容<br>(実施科目のみ記載)  | 教員の自己評価<br>(当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)  |
|-----------|------|------|---|---|
| 経営史特論     | 春期   | 1    | <p>※授業アンケート未実施科目の為、授業到達目標を記載</p> <p>1、アメリカから日本に導入された近代的経営手法の具体的な内容を習得したうえで、日本側の「創造的吸収」の意義、結果を理解するようになる。</p> <p>2、「日本的生産システム」、「日本的経営」に示された「日本的」特質とその普遍性について、概ね理解するようになる。</p>                       | <p>授業到達目標は概ねクリアできたと考える。アメリカから導入された経営システム、近代的経営手法、および日本側の「創造的吸収」に関しては、その歴史的経緯、具体的内容、意義をきちんと確認し、理解できたと思う。</p> <p>これに対して、「日本的経営」における「日本的」特質（例えば、終身雇用〈長期安定雇用〉、報酬制度〈年功賃金制〉、労働組合の機能〈企業内労組〉、従業員の組織へのコミットメント〈忠誠心〉、人材の採用〈新規一括採用〉と育成〈内部昇進に伴う長期的人材育成システム〉などについては、理論的な論述が多く、受講生にとって難しい部分があった。これを解決するために、異文化経営の観点から、また海外進出する日系企業のアンケート調査の結果を活用しながら、分かりやすく講義することを試みた。</p> <p>受講生が凡そ満足したように感じている。今後は最新の研究成果を補足しながら、授業構成を変えずに続けていきたいと考える。</p> |
| アジア経済事情特論 | 秋期   | 1    | <p>※授業アンケート未実施科目の為、授業到達目標を記載</p> <p>1、中国の人口政策、戸籍管理制度の内容、仕組み、特質を理解するようになる。</p> <p>2、改革・開放前の国有・国営企業の特徴、問題点および改革開放後の国有企業の変貌を認識するようになる。</p> <p>3、中国企業における組織と個人の関係の歴史的流れを把握し、組織・個人関係の特質を理解するようになる。</p> | <p>中国の経済・経営の歴史と現状、日本との共通点や相違点について、「一人っ子政策」、「戸籍管理制度」、「単位制度」、「中国人従業員の労働観」などに関連するトピックをたてて講義し、そのうえで受講生と議論する形で授業を進めた。受講生はほとんど予備知識がないため、到達目標を達成するために、まず極力専門用語を丁寧に解説し、分かりやすい授業を心掛けた。また説明する際に多くの事例を挙げることに留意した。</p> <p>全体的には人口政策、戸籍管理制度についてはかなり理解しているようだが、国営企業の特徴・問題点、および組織と個人の関係については十分に理解したとはいえず、今後の課題となる。</p>   |

## 教員の授業報告

経営学研究科  
職名 客員教授  
氏名 高橋 均

| 科目名   | 開講<br>時期 | 履修<br>者数 | 学生の授業アンケート内容<br>(実施科目のみ記載)  | 教員の自己評価<br>(当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)  |
|-------|----------|----------|---|---|
| 会社法特論 | 春期       | 1        | <p>※授業アンケート未実施科目の為、授業到達目標を記載</p> <p>① 株式会社を巡る法制度を理解するとともに、企業買収や企業不祥事等の具体的な事象に対して、会社法の具体的な適用について、裁判例も踏まえながら理解を深めることができること</p> <p>② 大学院生として相応しい理論的な思考を身につけること（リーガルマインド）</p> | <p>1. 当該授業の履修の意義<br/>ビジネスを行う上での基本法である会社法は、法学部出身の学生に限らず、社会人として、一度は体系的に学修しておく意義がある科目です。</p> <p>2. 授業を行うにつき心掛けたこと・工夫したこと<br/>単に、会社法の制度論ではなく、実務に応用できる視点を心掛けました。具体的には、①立法趣旨を丁寧に説明、②具体的な事例問題を通して具体的に考える、③マスメディアで報道されているような事案（M&amp;A、不祥事等）を説明に極力取り込む、④DVDの鑑賞及びそれを踏まえて自分の意見を説明する、などの工夫を行いました。</p> <p>3. 授業の進め方<br/>今学期は、履修生が一人であったので、完全マンツーマンの授業を行いました。履修生も、欠席・遅刻もなく、全ての授業に積極的に出席・参加しました。<br/>毎回、質疑を取り入れ、理解の程度に応じて解説に濃淡をつけました。また、履修生も積極的な参加を通じて、リーガルマインドについての考えを身につけることができたと評価します（質疑内容、及びレポートの結果より判断）。</p> <p style="text-align: right;">2022年8月4日報告</p> |



## 教員の授業報告

経営学研究科  
職名 客員教授  
氏名 星 恵美子

| 科目名    | 開講<br>時期 | 履修<br>者数 | 学生の授業アンケート内容<br>(実施科目のみ記載)  | 教員の自己評価<br>(当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)  |
|--------|----------|----------|---|---|
| 所得税法特論 | 春期       | 1        | <p>※授業アンケート未実施科目の為、授業到達目標を記載</p> <p>1 所得税法の仕組みを理解するとともに、各条文を読みこなし、関連する判例や学説の研究を進められるようにする。</p> <p>2 事業所得等の決算書等や一般的な確定申告書の作成をできるようにする。</p> | <p>1 受講生が1名のみマンツーマン授業であったことから、一方的な授業にならないよう、適宜質問を行うなどして緊張感を持って授業を進めた。</p> <p>2 受講生は所得税法に触れるのは全く初めてであったが、過度に初級者の授業にならないよう、一定のレベルを保って講義した。</p> <p>3 1回90分、全15回の講義時間の中で、所得税法を一通り講義するには時間が短い、授業外の時間において自己学習出来るよう、配付資料の充実に努めた。</p> |

## 教員の授業報告

経営学研究科  
職名 非常勤講師  
氏名 山本 貴啓

| 科目名    | 開講<br>時期 | 履修<br>者数 | 学生の授業アンケート内容<br>(実施科目のみ記載)  | 教員の自己評価<br>(当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)   |
|--------|----------|----------|---|--|
| 会計監査特論 | 秋期       | 1        | <p>※授業アンケート未実施科目の為、授業到達目標を記載</p> <p>財務諸表監査の制度的背景を理解して、資本主義社会において監査がどのような役割を果たしているのかを説明することができる。さらに監査実施及び監査報告における重要論点を体系的に理解し、監査実務がどのように行われているのかを理解することができる。</p> | <p>会計監査論は科目の性質上、金融商品取引法や会社法に基づき公認会計士が行う現実の制度に基づくものである以上、抽象的な理論に偏らず、生きた事例を取り入れて、講義をするよう心掛けた。例えば、監査上の主要な検討事項（KAM）などの最新の実務について、実際の企業の監査報告書の事例を取り入れて講義できたため、わかりやすいものとなったのではないかと自負している。</p> |

## 5 研究発表会及び意見交換会

例年、大学院担当教員相互の研究交流を図るとともに、学生及び客員教員との意見交換の場を設け、今後の大学院の教育研究活動の活性化に資することを目的として以下の研究発表会及び意見交換会を実施している。

### 5-1 研究発表会

日 時：令和4年9月6日(水) 11:00～12:00 (講演40分、質疑応答20分)

場 所：埼玉学園大学3号館 402教室

参加者数：専任教員11名、客員教員1名、大学院生2名 合計14名

内 容： 発表者：佐藤 正勝 教授

テーマ：「デンソー事件最高裁判決 一判示内容の分析及び射程の考察」

### 5-2 大学院専任教員と客員教員及び大学院生による意見交換会

日 時：令和4年10月26日(水) 15:10～15:40

場 所：埼玉学園大学3号館 6階 大会議室

参加者数：専任教員11名、客員教員2名、大学院生2名 合計15名

内 容：

院生からの主な意見

- ・授業並びに研究指導内容については大変満足している。
- ・本学大学院生としての生活において特に問題点は見当たらない。

教員からの主な意見

- ・論文作成に向けての種々のアドバイスがなされた。
- ・時間管理の難しさや自己と向き合うつらさもあるかと思われるが、研究テーマに情熱を持って取り組むよう、院生に向けたメッセージが伝えられた。

### 5-3 大学院専任教員と客員教員による意見交換会

日 時：令和4年10月26日(水) 15:40～16:10

場 所：埼玉学園大学3号館 6階 大会議室

参加者数：専任教員11名、客員教員2名 合計13名

内 容：

主な意見

- ・院生の実態を踏まえ、本学経営学研究科の使命および社会における役割について真剣に意見交換がなされた。
- ・大学院教育のあり方、大学院の社会における存在価値についても意見交換がなされた。

## <成 果>

課題研究の進捗状況やその適切な指導のあり方、院生が学修しやすい環境の構築、課題の提示についての基本的な考え方の確認等、活発な情報交換がなされ、それぞれの場面での方策について、よりよいあり方を検討することができている。今後も定期的に継続していく予定である。

## 6 論文審査について

本大学院経営学研究科では、博士前期課程の修士論文作成過程において2年次に2回の中間報告会を行い、修了年度の2月上旬に最終試験を行っている。博士後期課程の博士論文作成過程においては、3年次までに計2回の中間報告会、3年次に学位論文検討会を実施することとしている。最終試験については、修了年度の2月上旬に最終試験を実施している。

令和4年度の報告会及び最終試験は以下の内容にて実施された。

### 6-1 修士論文及び博士論文中間報告会

#### 第1回修士論文及び博士論文中間報告会

日 時：令和4年5月26日（水）博士前期課程 15:00

場 所：埼玉学園大学3号館 202教室

【第1回博士論文中間報告会】（1人当たり発表30分、質疑応答30分）

|             | 202教室             |       |
|-------------|-------------------|-------|
| 時間          | 発表者               | 指導教員名 |
| 14:00~15:00 | 21DB0001<br>湯本 伽奈 | 一戸 真子 |

【第1回修士論文中間報告会】（1人当たり発表20分、質疑応答10分）

|             | 202教室             |       |
|-------------|-------------------|-------|
| 時間          | 発表者               | 指導教員名 |
| 15:10~15:40 | 21MB0001<br>島本真奈未 | 吉田 雄司 |
| 15:40~16:10 | 21MB0002<br>鳥海良之利 | 佐藤 正勝 |
| 16:10~16:40 | 21MB0003<br>羽鳥 雅斗 | 李 相和  |

#### 第2回修士論文中間報告会

日 時：令和4年11月30日（水）博士前期課程 13:00より

場 所：埼玉学園大学3号館 501教室

【第2回修士論文中間報告会】（1人当たり発表20分、質疑応答10分）

| 時間          | 発表者               | 指導教員  |
|-------------|-------------------|-------|
| 13:00~13:30 | 21MB0001<br>島本真奈美 | 吉田 雄司 |
| 13:40~14:10 | 21MB0002<br>鳥海良之利 | 佐藤 正勝 |
| 14:20~14:50 | 21MB0003<br>羽鳥 雅斗 | 李 相和  |

## 6-2 学位論文発表会及び最終試験

日 時：令和4年2月7日（金） 9：00

場 所：埼玉学園大学3号館 201教室・小会議室

【修士論文発表テーマ】（1人当たり発表20分）

| 学生番号・氏名           | 指導教員名 | 研究テーマ                   |
|-------------------|-------|-------------------------|
| 21MB0001<br>島本真奈未 | 吉田 雄司 | 自然資本会計の情報開示に関する研究       |
| 21MB0002<br>鳥海良之利 | 佐藤 正勝 | 給与所得の意義 ―空間的・時間的拘束とは何か― |
| 21MB0003<br>羽鳥 雅斗 | 李 相和  | 資産除去債務に関する一考察           |

【学位論文発表会及び最終試験】（博士前期課程）

|                   | 学位論文審査<br>(審査委員のみで実施) | 修士論文発表会     | 最終試験<br>(審査委員会ごとに口頭試問を実施) |
|-------------------|-----------------------|-------------|---------------------------|
|                   | 小会議室                  | 202教室       | 小会議室                      |
| 21MB0001<br>島本真奈未 | 9：00～9：10             | 10：00～10：20 | 12：00～12：20               |
| 21MB0002<br>鳥海良之利 | 9：10～9：20             | 10：20～10：40 | 12：20～12：40               |
| 21MB0003<br>羽鳥 雅斗 | 9：20～9：30             | 10：50～11：10 | 12：40～13：00               |

## 7 おわりに

13年目となる令和4年度は、1名の博士前期課程の入学（学内選抜1名）を本学研究科のアドミッション・ポリシーに基づき受け入れた。また、本学研究科在籍院生に対し、博士前期課程においては、カリキュラム・ポリシーに基づき、専任及び客員教員併せて26名体制で質の高い教育および研究指導が行われた。

また、論文指導においては、2回の中間報告会および最終試験が、本研究科ディプロマ・ポリシーに沿って遂行され、第12期博士前期課程修了生3名を輩出することができた。発表後には院生による中間報告会の振り返りも実施された。

更に、教員の資質の向上および教員間の教育および研究交流、院生と教員との活発なコミュニケーション等を目指し、研究発表会および意見交換会が例年通り実施された。また、教員個々による授業報告の実施により、より一層、教育内容の質改善に向けた点検を行うことが出来た。学生による授業アンケートは、博士前期課程への入学者が1名のため、実施方法に基づき実施できなかったが、院生による論文作成に関する自己評価も含め、振り返りシートの活用により、論文指導についての意見の収集を行った。

引き続き、次年度に向け、教員の教育・研究能力の向上を目指し、更なるFD活動を展開していく所存である。

## 埼玉学園大学大学院FD委員会規程

平成22年 5月12日制定

### (目的及び設置)

第 1 条 本大学院に、授業内容及び教育方法を改善し、その質的充実を図るとともに、教員の教育力の向上に資すること（Faculty Development。以下「FD」という。）を目的とし、FD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

### (任 務)

第 2 条 委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項について組織的な推進を図ることを任務とする。

- (1) FD活動の企画立案に関する事
- (2) FD活動に関する情報収集及び提供に関する事
- (3) FD活動についての評価及び報告書の作成に関する事
- (4) 学長の諮問した事項に関する事
- (5) その他大学院のFDの推進に関する事

### (組 織)

第 3 条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 研究科長
- (2) 専攻主任
- (3) 専任教員のうち、研究科委員会より選出された教員 若干名

### (任 期)

第 4 条 委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置き、委員長は研究科委員会の議を経て、学長が指名する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

### (会 議)

第 6 条 会議は、過半数の委員の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

### (委員以外の者の出席)

第 7 条 委員会は、必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

### (事 務)

第 8 条 委員会の事務は、事務局教務課において処理する。

### 附 則

1 この規程は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

2 この規程施行後、最初に就任する委員の任期は、第 4 条の規定にかかわらず平成 23 年 3 月 31 日までとする。

令和〇年〇月〇日

大学院経営学研究科  
授業担当教員 各位

大学院経営学研究科  
FD委員長 一戸 真子

学生向け授業に関するアンケート実施のお願い

埼玉学園大学大学院経営学研究科の授業につきましては、日頃より格別のご指導、ご配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和〇年度〇期の授業アンケートを下記のとおり実施することとなりました。

つきましては、アンケート実施の趣旨をご理解いただき、実施していただきたく、ここにお願い申し上げます。

ご負担をおかけいたしますが、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

記

1. 実施期間 令和〇年〇月〇日～令和〇年〇月〇日
2. 対象授業 講義科目、研究指導科目
3. 実施・回収
  - ・アンケートの実施科目は、履修者が2名以上の講義科目及び研究指導科目を対象とする。
  - ・担当教員は所定のアンケート用紙（人数分）及び回収袋（1袋）を授業終了前の10～20分に配布する。
  - ・担当教員は回収袋にあらかじめ実施日・授業担当者を記入する。
  - ・アンケート実施後、学生自身がアンケートを回収袋に直接入れ、最後の学生に封をするよう指示をする。
  - ・封をした学生に教務課へ提出するよう指示をする。
4. 授業アンケート結果の活用  
授業アンケートは集計し、FD活動報告書に掲載する。

以上

授業についてのアンケート（講義科目、研究指導科目）

科目名（ ）

教員名（ ）

月 日 曜日 時限実施

※上記、記載漏れがないようお願いします

大学院の授業の質的向上のために、アンケート調査を行います。下記質問について、自由に記述してください。なお、このアンケートが成績評価に影響することは一切ありません。

|                                       |
|---------------------------------------|
| 1. この授業を履修した理由は何ですか？                  |
| 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか？ |
| 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。            |
| 4. この授業について、要望があれば記入してください。           |

ご協力ありがとうございました。



参考資料4

教員の授業報告

経営学研究科  
職名  
氏名

| 科目名 | 開講<br>時期 | 履修<br>者数 | 授業到達目標 | 教員の自己評価<br>(当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、<br>改善・工夫したこと及び特筆すべき事項) |
|-----|----------|----------|--------|--|
|     |          |          |        |  |
|     |          |          |        |  |
|     |          |          |        |  |

参考資料5

## 中間報告会の振り返り

埼玉学園大学大学院 経営学研究科

| 学生番号  | 氏名 | 指導教員名 |
|---|----|-------|
|   |    |       |
| 中間報告会までの準備を振り返ってどのような点が反省点としてあげられますか            |    |       |
|   |    |       |
|   |    |       |
|   |    |       |
|   |    |       |
|   |    |       |
| 論文指導についての意見は何かありますか                             |    |       |
|   |    |       |
|   |    |       |
|   |    |       |
|   |    |       |
| 中間報告会での各教員からのアドバイスは、今後の論文作成において、どのように参考になりましたか。 |    |       |
|   |    |       |
|   |    |       |
|   |    |       |
|   |    |       |

※書ききれない場合は、行数を増やしていただいて構いません。